

令和7年度

運営に関する計画（最終）

大阪市立桜宮小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題(全市共通目標に対して、令和7年度当初)

学校運営全体を通じて、知・徳・体のバランスのとれた教育をめざし、平成25年度より体育科を校内研究教科に取り上げ、体育科の指導を中心に取り組んできた。

【安全・安心な教育の推進】

『小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。』という目標に対しては86.1%の児童が最も肯定的な「思う」と回答しており達成することができている。また、その割合を肯定的にまで上げると、実に98.1%の児童が「いじめ」が許されないものであると認識している。「いじめ」については「絶対にあってはならない」という意識を学校全体でより一層向上させるため、ファミリー活動や学級活動を充実させる取組の深化、充実に努めていく。また、教職員についても人権意識向上や児童理解のための研修を行い、変化の機微を見落とさぬようアンテナを高くし、児童一人ひとりに寄り添う関わりができるように努めたい。

『不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる』という目標については、令和5年度0.33%、令和6年度0.63%となっており達成することができなかった。さらに『前年度不登校児童の改善の割合を増加させる』という目標についても令和5年度1人に対して、令和6年度も1人となっており達成することができなかった。

「不登校」問題については未然に防ぐことが肝要であるため、常日頃から家庭との連携を密にし、心のケアやサポートを丁寧に行っていく。また、当該児童については、区役所の子育て支援室やカウンセラーとの連携を図るなど、解決への方途を尽くしたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

『小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を65%以上にする。』という目標については、児童割合が49%となっており達成することができていない。一方、同項目の肯定的な回答については児童割合が90.4%と高い水準に達していることから、そうした児童を中心に、より話し合い活動の良さを実感できるような場を設定し展開していくことで目標達成をめざしていく。また、話し合いの土台となる基礎学力の確実な定着と向上を念頭におき、日々の学習指導や朝の学びの時間などの活用、論理的思考力や「書く」力を育てるための系統立てたノート指導など、様々な形でのアプローチを行っていききたい。

『小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を75%以上にする。』という目標については、児童割合が75.7%であり、目標を達成することができている。今年度も継続した取組により、運動に親しむ児童のさらなる育成に努めたい。体力向上については「桜の力」を体育の学習と結び付けながら有効活用できるよう取組を進める。また、休み時間には指導者も外へ出て一緒に体を動かすことにより、児童が体を動かすことについて、これまで以上に習慣化していけるようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

教育DXについての児童実態としては、継続的な取組により、慣れ親しむ段階から実践的に活用する段階へと移っている。教職員同士が効果的に活用できる具体的な場面を共有し、指導技術の向上を図るためのICT研修をさらに重ねていきたい。

働き方改革については、合理的かつ効率的に仕事を進められるよう、教職員一人ひとりの意識を高めていけるようにする。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査(校内調査)の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の校内アンケートの「学習活動の中で学習者用端末を活用することができますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。
- ・年度末の校内アンケートにおいて、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内アンケートにおいて、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 令和7年度の小学校学力経年調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を、90%以上にする。
- 令和7年度校内アンケートの「学校は楽しいですか」の項目で肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。
- 令和7年度校内アンケートの「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を65%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。
- 令和7年度の新体力テストにおいて、体力合計点で大阪市平均を上回る。
- 校内アンケートの「体育科の学習以外で、運動場に出て体を動かしていますか」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないかつ1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする）を満たす教員の割合を90%以上にする。

学校園の年度目標

- 令和7年度末の校内アンケートの「学習活動の中で学習者用端末を活用することができま
- すか」の項目で、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。
- 時間外勤務時間を市平均以下にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・『小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を87%以上にする。』について、今年度の結果が出ていないため、年度末に実施した校内アンケートの結果を基に示す。最も肯定的な回答は95.25%と、目標を上回ることができたといえる。また肯定的な回答においては100%であった。
- ・『年度末の校内アンケートにおいて、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。』については、前年度が0.63に対し、今年度は0（不登校児童0人）となり、目標を達成することができた。
- ・『年度末の校内アンケートにおいて、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。』については、前年度1人に対して、今年度は0人と改善が見られた。

学校園の年度目標

- 『令和7年度の小学校学力経年調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を、90%以上にする。』について、最も肯定的な回答は95.25%と、目標を上回ることができた。
- 『令和7年度校内アンケートの「学校は楽しいですか」の項目で肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。』については、肯定的な回答が98.3%と、目標を上回ることができた。
- 『令和7年度校内アンケートの「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。』については、肯定的な回答が97.63%と、目標を上回ることができた。
- いじめはどんな理由があっても許されないという意識の育成を目標に、ファミリー活動や学年、学級での活動、指導に取り組んできた。また、ICTを活用した「心の天気」を毎日入力させることにより、児童の心の変化を把握し、早期対応につなげる体制づくりを進めてきた。その結果、互いを認め、相手の立場に立って考える姿が多くみられるようになり、いじめを許さない雰囲気醸成につながった。今後も児童一人ひとりに寄り添った指導を意識し、児童が安心して過ごす安全な場としての学校づくりを進めていくとともに、最も肯定的な回答が100%になることを目指す。
- 不登校の未然防止に向けて、日ごろから児童一人ひとりとの関わりを大切にするとともに、保護者との連携を密に図り、場合によってはスクールカウンセラーにつないだりするなどして心のケアも丁寧に行ってきた。今後も不登校児童を出さないように、丁寧な関わりや支援をしていくようにする。
- 安心できる学校づくりには、児童が安全に過ごせる環境の確保が不可欠である。今後も、校内の安全点検を常に行うだけでなく、学校生活の中できまりを守る大切さを考えられるように指導し、児童一人ひとりの規範意識を高められるようにしていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・『小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を65%以上にする。』について、今年度の結果が出ていないため、年度末に実施した校内アンケートの結果を基に示す。最も肯定的な回答は74.92%と目標を上回った。
- ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年

的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。

○上記目標について調査結果がまだ未返却のため達成状況は不明である。

学校園の年度目標

- 『令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。』について上記の通り、最も肯定的な回答は74.92%であり、目標より下回った。
- 『令和7年度の新体力テストにおいて、体力合計点で大阪市平均を上回る。』について、全国を50.0とみたとき、男子は桜宮小51.5、大阪市48.5、女子は桜宮小51.6、大阪市48.5と男女とも、大阪市だけでなく全国の体力合計点も上回った。
- 『校内アンケートの「体育科の学習以外で、運動場に出て体を動かしていますか」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。』について、肯定的な回答は94.91%と目標より上回った。
- 体育科の学習を中心に、各教科において主体的・対話的で深い学びのある授業を意識して研究を進めてきた。授業では話し合い活動や教え合いの場面を積極的に取り入れることで児童が自分の考えを深める姿が見られた。また、外部講師を招いての研修会や授業研究を積み重ねることで、教員の授業力向上にもつながったと考える。今後も話し合い活動、教え合い活動を充実させ、児童一人ひとりが考えを深めたり、広げたりできる授業が展開できるようにしていく。
- 体育科の授業だけでなく、「桜の力」を活用と、運動環境の整備により、いつでも運動に親しめるようにしてきた。また「桜の力週間」「なわとびギネス」「走ろうタイム」などの強化週間を設定し、楽しみながら運動に取り組める機会を充実させたことで、運動への意欲の向上が見られた。また、休み時間には教職員も運動場に出て、児童と交流しながら運動することで、児童の体力向上にもつながったと考える。今後も取組を継続し、体力向上と運動習慣の定着を図っていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・『授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。』について90.4%と目標を上回ることができた。
- ・『「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないかつ1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにする）を満たす教員の割合を90%以上にする。』について12月までで48.15%と年度末での目標達成はできない見込みである。昨年度と比べると8.15%上昇している。

学校園の年度目標

- 『令和7年度末の校内アンケートの「学習活動の中で学習者用端末を活用することができますか」の項目で、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。』について肯定的な回答は97.97%と、目標を上回ることができた。
- 『時間外勤務時間を市平均以下にする。』について12月の時点で、桜宮小学校が28時間38分、大阪市が22時間44分と目標を達成することができなかった。

- 登校したら「心の天気」を入力するということが児童の中で習慣化してきた。また、デジタルドリルやインターネットを活用した調べ学習、タイピングの学習(らっこたん)などを日常的に取り入れることで、学習者用端末を学習のツールとして活用できるようになってきている。さらに、ICT支援員と連携しながら計画的に校内研修を行うことで、教職員のICT活用スキルおよび児童への指導力の向上がみられた。
- 4月から12月までの超過勤務時間が大阪市平均を約6時間超過している。1か月の時間外勤務時間が45時間以下の教員の割合は92.31%と目標を達成しているが、1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない教員の割合については、48.15%と目標達成することができなかった。しかし、2学期から教職員一人ひとりが退勤予定時刻を自ら設定し、出勤札に色別マグネットを用いて示す「見える化」に取り組んできた。その結果、退勤時刻までの業務の見通しをもち、優先順位を意識して仕事を進めることが習慣化してきている。実際11月以降、時間外勤務時間の減少がみられ、取組の効果が表れてきている。今後も公開研修や会議の精選、授業時数の見直しに加え、教職員の働き方への意識向上を図り、持続可能な働き方改革を行っていくようにする。

大阪市立桜宮小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 87%以上にする。95.25% (肯定的 100%) (校内アンケート) 不登校児童0人 ・年度末の校内アンケートにおいて、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内アンケートにおいて、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和 7 年度の小学校学力経年調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を、90%以上にする。95.25% (肯定的 100%) (校内アンケート) ○校内アンケートの「学校は楽しいですか」の項目で肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。98.3% ○校内アンケートの「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で肯定的に答える児童の割合を 95%以上にする。97.63% 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1、安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>異学年交流を通して、自分の役割や友だちの良さに気付けるようにし、互いを思いやり、尊重し合える集団作りを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班（ファミリー）を用いた異学年交流の機会を基本的に年に 10 回、児童会行事を学期に 1 回行う。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向 1、安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>規範意識を高め、主体的にきまりや規則を守ろうとする児童を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に 1 回生活目標強調週間を、年間 2 回あいさつ週間をそれぞれ設定し、校内でみんなが気持ちよく過ごすことができる方法について、子どもが自分から進んで考えることのできる取り組みを行う 	A
<p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>自他の生命を大切にし、お互いに尊敬し合う態度や自他の人権を守る行動をとることができる児童を育成する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科とのつながりを意識した人権教育年間指導計画を作成し、それに基づいてそれぞれの学年で年間 2 回以上個別の人権課題について考える機会を設定する。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合が95%となり目標を達成することができた。

校内アンケートの「学校は楽しいですか」の項目で肯定的な回答をする児童の割合が98%となり、目標を達成することができた。

校内アンケートの「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目で肯定的に答える児童の割合が97%となり、目標を達成することができた。

以上、すべての項目において学校の年度目標を達成することができた。ただし、現状に満足することなく、いじめはよくないと答える児童を100%に近づけていく等、今後も職員が連携をして児童の指導にあたるべきだと考えられる。

- ① 異学年交流の機会は十分設定されており、その成としてそれぞれの学年の児童にとっての成長が感じられ、学校が楽しく一因となっている。
- ② 取り組みが規範意識の高まりにつながっている。
- ③ 個別の人権課題について、学年の発達段階に応じて、人権意識を高める取組を行うことができてきている。

次年度への改善点

- ① 現在行っている取組を継続し、学校を楽しんでいる児童を増やしていく。
- ② 現状では会釈はするがあいさつをしない、または声が小さい児童は一定数いる。自発的に元気よくあいさつができる児童の育成を今後も目指して、指導の在り方を工夫していきたい。また、生活強調週間の取り組みでは、服装に関する新たな項目を加えることで規範意識の高まりが見られた。今後も実態に応じた項目設定をするなど、規範意識向上に向けた工夫をしていきたい。
- ③ 取り組むべき領域の内容を整理し、系統立てて計画的に進めていきたい。

大阪市立桜宮小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を65%以上にする。74.92% (校内アンケート) ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。83.57% (校内アンケート) ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を80%以上にする。 <p>学校の年度目標 75.93% (類似項目の校内アンケート)</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。74.92% (肯定的:98.3%)</p> <p>○令和7年度の新体力テストにおいて、体力合計点で大阪市平均を上回る。 男子:全国50.0 大阪市48.5 桜宮小51.5 女子:全国50.0 大阪市48.5 桜宮小51.6</p> <p>○校内アンケートの「体力や運動能力の向上のために、体育科の学習や休み時間で運動に意欲的に取り組みましたか」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。 94.91%</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 対話的な学習を多面的にとらえ、あらゆる教科、領域の学習において、児童がともに学びあう集団の育成に努める。</p> <p>指標 ・ペアやグループで意見交流をする場を1日1回以上設定する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学習の向上】 教員の指導力を向上させるために、「主体的・対話的で深い学び」を視野に入れた授業研究や校内研修を行う。</p> <p>指標 ・授業を受けもつ全教員が研究授業や公開授業を行う。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】 運動に親しむ機会をより多く設け、体力・運動能力の向上に努める。</p> <p>指標 ・校内アンケートの「体力や運動能力の向上のために、体育科の学習や休み時間で運動に意欲的に取り組みましたか」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を90%以</p>	A

上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 話し合い活動についてのアンケートの結果については、全市目標は上回ることができたが、学校目標には届かなかった。ただ、中間アンケート時よりも数値は向上しており、各学級での教科学習においてもペアやグループで話し合い活動を積極的に取り入れていることで、その効果を実感している児童が多くなっていることが見て取れる。夏季休業中に実施した「話し合い活動研修会」で、場の設定だけでなく、場の持ち方の様々な工夫を共有しあい実践したことも効果的であった。</p> <p>② 研究教科の体育科学習をはじめ、様々な教科学習に対しての研修会を設定することや、低・中・高学年で公開授業の内容を検討しあうこと、年間通してメンター研修として若手教員を中心に講師先生の指導を受けることなどにより、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>各教科学習に関するアンケートの結果は、まだ結果がわからないものもあるが、外国語活動に関しては全市共通目標を上回ることができていない。毎週のモジュールでの取組など、各学級で取組を進めているが、さらなる児童の意欲向上に向けて模索していく必要がある。</p> <p>③ 運動についてのアンケートの結果については、全市目標は上回ることができなかったが、学校目標は上回ることができた。体育科学習の授業研究や運動環境の整備、体育的な行事（桜の力週間、なわとびギネス、走ろう会など）、区と連携しての運動能力向上事業の実施など、様々な取組の成果として、運動に前向きな児童が多くなってきている。休み時間には外で元気よく遊ぶ児童がほとんどで、学級でのみんな遊びの実施や、教員と一緒に外に出て活動することなども、児童の運動意欲向上につながっている。</p> <p>新体力テストの結果については、ほとんどの項目で大阪市平均・全国平均を上回ることができ、体力合計点においては、男女ともに大阪市平均を3ポイント、全国平均を1.5ポイント上回ることができ、日々の取組の成果が感じられた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 話し合い活動の設定の仕方についてさらに深めていけるよう、継続的に取組を進めていく。</p> <p>② 教職員の児童看護体制を整え、公開授業以外にも互いに授業を参観しあえる環境づくりに努めて、さらなる指導力の向上を図る。</p> <p>③ 授業研究後の事後アンケート結果や体力テストの分析を踏まえて検証し、取組内容の工夫に生かしていく。</p>	

大阪市立桜宮小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 82% 以上にする。 90.4% 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えないかつ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えないようにする) を満たす教員の割合を 90% 以上にする。 48.15% (昨年度 12 月時点で 40.0%) <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和 7 年度末の校内アンケートの「学習活動の中で学習者用端末を活用することができますか」の項目で、肯定的に答える児童の割合を、90% 以上にする。 97.97% ○時間外勤務時間を市平均以下にする。 大阪市 22 時間 44 分 桜宮小 28 時間 38 分 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①</p> <p>【基本的な方向 6、教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>児童の興味・関心を高める授業の一層の推進に向けて、ICT 機器を有効的に活用する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において学習者用端末を使用する割合を 80% 以上にする。 デジタルドリルやデジタル教科書など、ICT 機器を有効的に活用できるよう、研修会を年間 3 回以上実施する。 	A
<p>取組内容② 【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、働き方改革を推進する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゆとりの日 (セットの日)」を週 1 回以上設定する。 日々の超過勤務時間が月 45 時間を超えないようにする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 授業日における児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数は年間授業日の 90.4% と、目標の 82% を上回った。心の天気やデジタルドリル、らっこたんなど日常的に活用できている。</p> <p>研修会は計画通り年間 3 回を実施できている。研修内容を ICT 支援員と連携し新しい端末の操作等に対応できるようにしている。</p> <p>② 4 月から 12 月までの本校の時間外勤務時間は月あたり平均 28 時間 38 分であり、大阪市平均を約 6 時間超過している。1 年間の時間外勤務時間の合計を超えない教職員の割合は、48.15% であり、昨年より約 8% 増加しているが、本校の掲げる 90% には至らなかった。</p>	

次年度への改善点

- ① 学習者用端末を道具の一つとして便利に活用していくために、端末の扱いや活用についてのルールを共有を継続していく。また原則持ち帰ることとなったことから、家庭での端末の扱いや活用について検討、設定していく必要がある。
ICT機器の活用については研修会を通してICT支援員と連携し新しい情報を共有していく。また、各学年の児童の発達段階に応じて系統立てた取組をすることでICT機器のよりいっそうの活用に繋げていく。
- ② 時間外勤務時間が市平均以下となるよう、出勤時に退勤予定時間の提示、校内研修、会議の内容の精選、時間の短縮などさらに見直しを図ってきた。そのため、目標を達成できている教職員の割合も高まってきた。
次年度の取組として、さらなる一人ひとりの業務効率化を進め、時間の短縮を目指す。また、各々がもっている業務上の技術の伝え合いを促進することにより、効率よく仕事ができるよう業務改善を行っていくよう努めていく。